

志木二中だより



令和2年度 11月号
志木市立志木第二中学校

令和2年10月30日(金)
志木市館1-3-1 TEL 048-473-2379

心を磨く

校長 本 庄 真

校内を歩いていると、廊下がたいへん美しいことに気がつきます。ゴミが落ちていないだけでなくピカピカ光っているように見えます。このことは先日、学校訪問でのお客様からも褒められました。生徒たちが、毎日授業後の清掃をしっかりとやっているのはもちろん、それだけでなく休み時間などもゴミが落ちていれば拾って捨てるという意識があるからだと思います。そして、放課後、部活の活動として廊下や階段を雑巾で拭いてくれている生徒もいます。拭くというより「磨いている」といった方が適切かもしれません。

校内だけでなく、今の時期、正門付近にたくさんの落ち葉がたまります。これを部活やクラス、委員会、或いは有志で掃き掃除をしてくれています。ありがとうございます。近隣にお住まいの方にも毎年ご迷惑をおかけしております。

昔、中東の日本人学校に勤務していたとき、子どもたちに清掃指導をすることが一苦勞でした。それぞれの家庭での掃除はボーイやメイド、使用人がやるため、子どもに掃除をするという習慣がないのです。海外ではそれで済んでも多くの子どもたちは日本に帰国して生活します。身の回りをきれいにしておく、汚したら自分できれいな状態に戻す、この必要なことを学校だけで教えるのは難しく、ご家庭にも協力していただいたのを思い出します。

私の所属する剣友会では、毎回の稽古の始めに黙想をしながら次のような「道場訓」を全員で声に出して確認します。『剣は心なり。心正しからざれば、剣また正しからず。剣を学ばんと欲する者は、まず心を磨け』(本校の剣道場にも同様なことが以前から掲示してあります。)まず心を磨け、と言われても小学生の低学年などは何をしてよいかわかりません。具体的に話をします。あいさつであり、返事であり、言葉遣いであり、話を聞く姿勢であり。そして、「道場を掃除すること」を教えます。自分が使った場所を感謝の気持ちをもってきれいに返す、大切なことです。

校内が全体的にきれいとはいえ、教室のロッカーなどの整理整頓の具合を見るとできていない人がいますよね。掃除に対する取り組みも意欲的な人とそうでない人がいるのも確かです。掃除は、「やらなければならないからやる」から「率先してやる」ようになると見違えるようにきれいになります。誰のためでもなく自らの「心を磨く」作業だと考えてみましょう。それができるようになると周りからの「信頼」につながります。

引き続き美しい環境で生活できるよう、みんなで取り組んでいってください。よろしくお願ひします。

